



町長室へようこそ No. 110

[はっか物語]

先日、大人の図書館祭りで「はっか」を使ったカクテル「モヒート」を提供しました。暑い夏のさわやかな飲み物として好まれています。モヒートはキューバで生まれたカクテルで、ラム酒をベースにライムと砂糖とはっかの葉を使い、氷と炭酸水を加えて作ります。滝上町は和はっかの産地ですが、今回は洋種のスペアミントを使用しました。ライムの酸味にスペアミントの甘い香りが、さわやかさを引き立てる飲み物です。

このところ滝上町のはっかに注目が集まっています。国内生産No.1を誇る和はっかですが、栽培面積は多くなく、和はっかに思い入れの強い生産者の方々に、維持されています。滝上以外では北見市で小面積作付されているのみであることや、輸入品と比べ安全性や高品質であることから、今や滝上の和はっかは希少品としての価値が高まっています。



先日、道内の大手菓子製造販売会社と医療大学の薬学部准教授の方々が訪れ、昨年提供した和はっかから作ったハーブティーが好評で、さらに増やしたいと高い関心を寄せていました。

これまで、和はっかから搾られた取り卸油は香料会社を通じ、薬品や芳香剤、入浴剤、虫よけ剤などに活用され、また漢方薬の原料として乾燥したものを製薬会社に販売しています。一方、滝上町内では、和種はっかにこだわりを持つ、(株)りんねしゃさんは初期の品種である「赤圓(あかまる)」を、さばいでい農園の藤村さんは「北斗(北見農試最後の和種品種)」を栽培し、それぞれ独自にエッセンシャルオイルに製品化し販売しています。

また、商工会女性部とはっか生産者が中心となって開発

した天然和はっか油100%のはっかスプレー「ストークール アウトドアミスト」も好評を博しています。



和種はっかと洋種のペパーミントを交配した「北海JM23号」は和種はっかの香りを向上させた品種で、これも滝上町秀晃園で栽培されています。

昭和初期、北見薄荷(はっか)は世界生産の7割を占め、北見薄荷の名をとどろかしたものの、輸入薄荷と合成薄荷の板挟みにより、大幅な価格低下、減産、高騰の波にあり、滝上町の作付面積も昭和36年の316haをピークに減少し続け、昭和46年には洋種のスペアミントが作付されましたが、残りませんでした。他地域のはっかが消滅したなかで、連続と少数の生産者で栽培を続けてきた滝上の和はっかは、北見滝ノ上(昔の駅の名前)薄荷王国になる期待がふくらみます。

9月は収穫乾燥したはっかを蒸留施設で搾り、取り卸油にする時期ですが、この風物詩である「はっか搾り」を見学するツアーが旅行会社で企画されています。

本物志向の時代、国産天然ものの価値が再認識されつつあります。ネットで知りましたが、千歳空港の北海道みやげの売上げで、道産素材のコスメ製品のトップはミントスプレーだそうです。ちなみに2位は馬油。この際、滝上町産和はっかを大いに売り込んでいきたいと思えます。

滝上町長 長屋 栄一

◇町長へのメールアドレスは tyoutyou@town.takinoue.hokkaido.jp です。

町長の主な動向 7/16~8/15

(7月)

17日 遠軽駐屯地創立66周年記念行事(遠軽町)

20日 滝上町農業委員会辞令交付

21日 工事入札、工事検定、叙勲伝達、滝上町要保護児童対策地域協議会代表者会議

22日 平成28年8月洪水を踏まえた防災・減災に関するシンポジウム(北見市)

23日 職員採用試験

24日 平成29年第1回紋別地区消防組合議会臨時会(紋別市)、越知町児童交流事業事前研修、叙位伝達

25日 都市計画審議会、滝上町赤十字奉仕団総会

26日 オホーツク圏活性化期成会要望(29日、札幌市・東京都)

30日 滝上リハビリセンター創立30周年記念式典、滝上消防団互助会親睦パークゴルフ大会

31日 平成29年度網走西部流域・林業活性化センター総会(紋別市)、地域づくりセミナー

(8月)

1日 工事入札、100歳を祝う会

2日 滝上町敬老会実行委員会

3日 北海道結志会地域政策懇談会(紋別市)

4日 平成29年度滝上みどりの森林推進協議会通常総会、森のこどもの村表敬訪問

7日 工事検定、平成29年度オホーツク地域づくり連絡会議(紋別市)

8日 見積合せ

10日 滝上町まちづくり審議会答申書受領、臨時議会、見積合せ